

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14920000359	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	株式会社メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう万田		
所在地	( 254-0913 ) 神奈川県平塚市万田55-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年10月13日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で外部の講師による3B体操や音楽療法など、イベントほとんどが中止となり、ご家族との面会もできないため、利用者様のストレスも限界にきています。ですが利用者様には毎日元気に過ごしていただくために、お楽しみランチやおやつレクなどおいしい物をたくさん食べていただき、たまにはドライブへ出かけたり、庭の畑の野菜を収穫するなど気分転換を図っています。職員間で今できることを話し合い、利用者様へ少しでも日常生活の刺激となってもらえるよう取り組んでおります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月30日	評価機関 評価決定日	令和3年2月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR線「平塚」駅北口より高村団地行きバス15分「南河内」バス停下車、徒歩3分の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。周辺には商業施設、交番、学校や公園などもあります。同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。

<優れている点>

春先以降コロナ禍の外出禁止や面会禁止の状況下、管理者と職員は利用者の健康管理に一層の注意を払っています。運動不足を防ぐため、毎朝のラジオ体操と第二ラジオ体操の曲に合わせたフロア歩きを継続して支援しています。精神面の安定には「脳リハすごろく」を楽しんでいます。「今の時間を教えて!」「昨日食べたご飯は?」「子供の頃、歌った唄は?」「夏の良いところは?」「自分でジャンケン」など質問に答えていくゲームです。時間や季節、利用者の思いなどを手繰りしながら、職員も共に楽しんでいます。「お楽しみランチ」は、月の担当者が利用者のリクエスト内容を自由に展開して提供しています。自ら調理する人のほかチラシや広告を見せ、希望を聞いてデリバリーを利用することもあります。いずれのメニューも好評です。「おやつレクリエーション」は、職員の発案から炊飯器で作るおやつにみんなでチャレンジを始めています。

<工夫点>

家族をはじめ、外部の質問や意見を記録するため「管理者専用の連絡帳」を新規に作成しています。これにより、管理者宛の質問が確実に届くこととなり、質問の受信内容や回答内容、経緯などを明確化できるようにしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアの理念は地域社会に貢献することを意識してつくられています。職員にも月1回のミーティングの前に全員で唱和しています。行動指針の内容を把握し業務にも反映できるよう取り組んでいます。	法人理念「絆・愛・感動を感じられるサービスの提供」を事業所理念とし、事業所独自の抱負を管理者が毎年提起しています。今年は「チームケア」についての抱負です。基本方針の「家族介護」と8項目から成る行動指針と共にゆとりケアを目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月に1回（第4日曜日）施設隣の公園や施設前の道路の草むしり・掃き掃除など行い地域貢献に取り組んでいます。自治会に加入し敬老会などに参加（今年はコロナで中止）しています。	開設期より自治会「旭地区」に加入しています。隣接の公園や道路の草むしり・掃除を職員の発案から実施継続しています。コロナ禍で各種行事の参加は中止しましたが「ふくろう通信」を発行して地域に配布し、HPで施設内のイベントの様子も発信しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談窓口を設け、地域の方で介護に困っている方や今後介護するとしたらどうすればいいかなど、気軽に相談できる窓口を設置しました。ですがコロナで2月中旬より中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響により、運営推進会議を併設の小規模多機能のみ参加で実施している。報告書と会議録を地域包括や自治会長などに送っています。ご家族から面会ができないため心配と言う意見もあり、毎月月の様子を写真により送っています。	昨年10・12月と今年の2月を最後に地域の構成メンバーの参加はありません。4月からは偶数月に活動報告をしています。報告書は合同開催の小規模多機能型居宅介護事業所の管理者と話し合い作成しています。報告はFAXで関係各所へ配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新しく管理者となりわからないことが多いため、介護保険課の担当者の方へ運営についてなど聞くようにしています。	コロナ禍で、市役所へ直接的な訪問は出来ていません。管理者は運営に関する事項（職種別常勤・非常勤の区分や勤務時間数など）を介護保険課に電話で相談し、人員の配置基準などに配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠していません。フロア入り口は施錠していますが自分で開けることができるタイプの物にしています。	普段のケア時に「座ってて」「待ってて」「動かないで」とスピーチロックの発言があった場合、個別に指摘をして注意を促しています。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回ミーティング時に開催し、介護施設の事例で検証しています。身体拘束をしないためのマニュアルを備えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束および虐待防止について定期的にミーティングにて時間を設け勉強会を行なっています。内部研修でも課題として取り上げ学びの機会を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は理解しているが職員が学ぶ機会を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし変わらないことや疑問点など最後に確認を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回家族へアンケートを行なっています。率直なご意見など運営に当たり参考にさせていただいております。	家族意見の聴取はアンケート調査が中心です。結果を職員に開示して周知をしています。今期、電話による問い合わせや安否確認も多く、職員が様子を伝えたり、時には利用者と直接会話ができるよう支援しています。管理者専用の連絡帳を新規作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回のミーティングや職員に向けてのアンケートを実施している。会社に対しての意見や改善してほしいことなど自由に記載ができるアンケートです。年に2回職員との面談も行なっています。	月例のミーティングでは発言も多く、リーダーがまとめています。日々のケアにおける悩みや有給休暇の取得についての意見などがあります。職員向けアンケートでは、仕事への遣り甲斐やスキルアップの環境可否を尋ね、結果を法人へ提言しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の特性を理解しその職員が得意としていることを役割として担ってもらうよう取り組んでいます。お菓子作りが好きな職員へおやつレクの担当をお願いしたり、きれい好きな職員へは環境整備を行なってもらっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修を毎月1回から2回ズームにて実施し学びの機会を作っています。職員は可能な限り参加してもらうように声かけを行なっています。スマホや自宅のPCからでも参加できるため気軽に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他法人の研修に管理者やリーダーが参加できるシステムがあります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスを開始するときは、話を聞く時間を多く作るようにしています。職員へもその方を知ることが重要と指導しています。安心して生活いただくために職員とのコミュニケーションをはかるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との面談を行ない、今困っていることや不安なことなど聞き取りを行い理解しやすいようにご説明をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族と話し合う中で他の施設の利用が望ましいと思い、他の施設を紹介したことがありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症ケアでご本人が職員を家族と誤ってしまいますことがあります。職員は否定をせず、家族のように接し安心させることができる職員と間違いを正そうとしてしまう職員がいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族へも協力していただくこともあります。特に提携以外の受診に関してはほとんどご家族に行なっていただいています。あまり負担に感じない程度と心がけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に確認し可能であれば近所の方や友人など面会に来てもらい、楽しい時間を過ごしていただいています。（現在はコロナで控えていただいています）	面会希望者には家族了解の下、可能な限りの関係継続を支援しています。近所の駄菓子屋の経営者が入居し、職員の中には子供のころ世話になった職員もいて、本人は記憶も無くなっていますが、昔話に笑顔も溢れています。皆で「脳リハすごろく」を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士も関係性が変化します。その都度職員が観察し席替えを行ったり、職員が間に入り取り持つこともあります。トラブルにならないように支援を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ法人の有料へ転居した方がいます。どのように過ごしているか施設と情報を共有しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を常に優先しています。レクに参加したくない方に無理に参加を促すこともしていません。本人の気持ちを観察しできることを一緒に行なっています。	普段の生活の何気ない会話に利用者の本音が聞けることがあります。改まると身構えてしまい本音が分からない為、リラックスできる環境をつくり、意向の把握に努めています。本人の気持ちを優先し、できることを探して支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に必ず本人・家族・担当のケアマネに確認し把握に努めています。職員へもその方の情報を周知してもらうようアセスメントシートにて回覧しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の中で気分の変化が急変する方もいます。その時の状態を把握し、職員は対応を変えています。お手伝いが好きな利用者へは役割を決め押しつけることのない程度に、取り組んでもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月のミーティング時に短期の更新の方のカンファレンスを行なっています。家族へは面会時に最近の様子だったり家族の意向を確認しケアプランに反映しています。	短期目標は6ヶ月ごとの更新です。カンファレンスではアセスメントも同時に更新し、その日の出勤職員と居室担当者、管理者で検討しています。見直し後のケアプランを本人に伝え、電話で家族の了解も受けています。面談時には改めて説明し署名を受けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録へ日々の様子を記録しています。状態の変化などあるときは連絡ノートなどに詳しく記載し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院について、家族での対応か施設での対応かを相談し協力を得ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握することができていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設で提携している訪問歯科以外の歯科医をご家族が希望し訪問を行なってもらっています。	かかりつけ医の選択は、利用者と家族が行っています。月2回の訪問診療の受診内容を記録し、職員間で共有しています。処方内容が変更された場合は、家族に電話で伝えていきます。今後の治療方針などは、面談の場を設けてしっかりと話し合っています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師はおりません。協力医療機関の看護師とは電話やFAXにて相談し指示などいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の受診へ同行し、主治医へ情報提供を行ったり、入院中には可能な限り病院へ出向き、病院関係者へ状態を確認し、状態把握に務めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に終末期および急変時の延命治療に関する同意書について説明をしています。	看取りや終末期対応について、入居時に書面を交わし、利用者と家族の意向を確認しています。状況変化の都度、利用者と家族の揺れ動く気持ちに寄り添いながら、支援のあり方を検討しています。ターミナルケアの社内研修には、毎年必ず参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故に対しての訓練は実施していませんが、急変時対応の手順表を作成し周知してもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練を実施し、水害や地震などの災害を想定し訓練を実施している。	夜間大雨による川の氾濫を想定した避難訓練を行っています。コロナ禍で、地域からの参加者はありませんが、利用者と職員は真剣に訓練に取り組んでいます。隣家とは協力を依頼できる関係を築いています。備蓄の保管と管理は業者に代行依頼をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴やトイレの介助にプライバシーの配慮を行なうよう配慮しています。本人の自尊心を傷つけないようなケアを全職員ができているかという点できていないことが現実です。課題として取り組みます。	入浴やトイレの介助で多忙を理由にプライバシーの配慮に欠ける強い口調を戒め、人格を尊重する支援に努めています。利用者宛の郵便物は、月末にまとめて家族に送っています。個人情報記載の書類は、施錠できるキャビネットに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的には本人の意向を確認しています。希望に添えるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員によっては業務中心になることもあります。一人ひとり飲ペースに合わせることは難しいですが、なるべく本人の意向を尊重するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な入浴の実施により清潔保持を確保している。たまに外出するときに髪を櫛でとくしたり身だしなみに注意をはらいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月リクエストランチにて利用者への希望を確認し提供しています。普段食べられない寿司やピザ・マックなど提供することもあります。	利用者のリクエストに応え、職員が料理の腕を披露したり、デリバリーサービスを注文するなど、バラエティーに富んだ昼食を提供しています。炊飯器を使ったおやつ作りにも挑戦しています。庭でとれた手作り野菜の収穫を祝うなど、皆で食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分や食事量の管理が必要な方のみチェック表にて摂取量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ほとんどご自分で口腔ケアを行なっています。先生より介助の指示があった方のみ介助にて行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	過剰なトイレ介助はしてません。必要に応じて必要な介助のみ行なっています。	尿意便意の感覚を維持できている利用者も多く、排泄の自立を支援しています。声かけやパッド交換が必要な人にはタイミングを見計らい、一人ひとりに合った適切な介助を心掛けています。トイレでの排泄が習慣づいた結果、布パンツ着用へ改善した人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事はバランスのとれた食材を配食サービスをお願いしているため、摂取量と水分量など必要な利用者へは、対応しそれでも排便が困難な方は、往診医へ相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日や時間を決めています。本人が拒否する時もあります。そんな時は別の日に対応したり臨機応変に対応しています。	週2回午前中に入浴しています。羞恥心への配慮から、ドア越しの安全確認で入浴する人もいます。同性介助の希望にも応じ、一人ひとりの意向に沿って支援しています。家庭用のシャンプーや石鹸を置き、冬は入浴剤を使用し、くつろぎの時間としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は特別決めていません。ご自身の部屋でテレビを見たり、日記を書いたりなど各々で自由な時間を過ごし、寝たいときに寝てもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の変更など往診記録に記入し、職員は必ず確認し把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ぬりえやトランプなど希望者のみ一緒にレクとして楽しんでもらいます。ラジオ体操やリハビリ体操は男性の参加もよく一緒に行なっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に合わせての外出はできません。ドライブなど今の状況でもできる外出支援を行なっています。ご家族との外出も面会ができないためできない現状です。	花菜ガーデン、平塚市総合公園、ミカン畑などへドライブに行き、車窓の景色に気分をリフレッシュしています。コロナ禍で買物は控えていますが、庭のベンチで日向ぼっこをしたり、野菜の収穫に歓声を上げたりと、日々の暮らしにアクセントをつけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は本人は行なっていません。お預り金にて必要に応じて消耗品など購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を自管理でもっている方もいます。自由に電話しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝、廊下・フロア・居室の掃除機をかけ清潔保持を心がけています。フロアには職員が季節の飾りを作成し展示しています。利用者似合わせた温度調整を行なっています。	細心の注意を払ってコロナ対策を実施しています。手洗いうがいや消毒はもとより、常に窓を5センチ程開けて換気を励行しています。季節ごとに飾りつけをアレンジし、外出時の写真も掲示して、フロアを和みの空間としています。職員手作りの防災頭巾を置いて災害への備えもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の時は席を決めて座ってもらいますが、それ以外ではソファで他の利用者と会話を楽しむ人もいれば、一人でテレビを見たり、新聞を読んだりと自由に過ごしてもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の居室は介護ベットとクローゼットのみこちらで準備しています。それ意外に関しては本人の使い慣れた物やテレビ・仏壇など自宅に近い環境作りを行なっています。	家具、寝具、仏壇、絵画の道具など、本人が大切にしている馴染みの品を持ち込み、居心地の良い居室となっています。テレビを見たり好きな塗り絵をしたり、思い思いに過ごしています。居室担当者が季節ごとの衣替えや布団の出し入れに協力をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活をしていると破損したりなどのトラブルがあります。都度業者へ連絡し改修してもらっています。安全に過ごしてもらうよう取り組んでいます。		

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	くすのき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアの理念は地域社会に貢献することを意識してつくられています。職員にも月1回のミーティングの前に全員で唱和しています。行動指針の内容を把握し業務にも反映できるよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月に1回（第4日曜日）施設隣の公園や施設前の道路の草むしり・掃き掃除など行い地域貢献に取り組んでいます。自治会に加入し敬老会などに参加（今年はコロナで中止）しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談窓口を設け、地域の方で介護に困っている方や今後介護するとしたらどうすればいいかなど、気軽に相談できる窓口を設置しました。ですがコロナで2月中旬より中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響により、運営推進会議を併設の小規模多機能のみ参加で実施している。報告書と会議録を地域包括や自治会長などに送っています。ご家族から面会ができないため心配と言う意見もあり、毎月月の様子を写真により送っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新しく管理者となりわからないことが多いため、介護保険課の担当者の方へ運営についてなど聞くようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠していません。フロア入り口は施錠していますが自分で開けることができるタイプの物にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束および虐待防止について定期的にミーティングにて時間を設け勉強会を行なっています。内部研修でも課題として取り上げ学びの機会を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は理解しているが職員が学ぶ機会は行なっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし変わらないことや疑問点など最後に確認を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回家族へアンケートを行なっています。率直なご意見など運営に当たり参考にさせていただいております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回のミーティングや職員に向けてのアンケートを実施している。会社に対しての意見や改善してほしいことなど自由に記載ができるアンケートです。年に2回職員との面談も行なっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の特性を理解しその職員が得意としていることを役割として担ってもらうよう取り組んでいます。お菓子作りが好きな職員へおやつレクの担当をお願いしたり、きれい好きな職員へは環境整備を行なってもらっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修を毎月1回から2回ズームにて実施し学びの機会を作っています。職員は可能な限り参加してもらうように声かけを行なっています。スマホや自宅のPCからでも参加できるため気軽に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他法人の研修に管理者やリーダーが参加できるシステムがあります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスを開始するときは、話を聞く時間を多く作るようにしています。職員へもその方を知ることが重要と指導しています。安心して生活いただくために職員とのコミュニケーションをはかるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との面談を行ない、今困っていることや不安なことなど聞き取りを行い理解しやすいようにご説明をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族と話し合う中で他の施設の利用が望ましいと思い、他の施設を紹介したことがありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症ケアでご本人が職員を家族と誤って思ってしまうことがあります。職員は否定をせず、家族のように接し安心させることができる職員と間違いを正そうとしてしまう職員がいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族へも協力していただくこともあります。特に提携以外の受診に関してはほとんどご家族に行なってもらっています。あまり負担に感じない程度と心がけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に確認し可能であれば近所の方や友人など面会に来てもらい、楽しい時間を過ごしていただいています。（現在はコロナで控えていただいています）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士も関係性が変化します。その都度職員が観察し席替えを行ったり、職員が間に入り取り持つこともあります。トラブルにならないように支援を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ法人の施設へ転居した方がいます。どのように過ごしているか施設と情報を共有しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を常に優先しています。レクに参加したくない方に無理に参加を促すこともしていません。本人の気持ちを観察しできることを一緒に行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に必ず本人・家族・担当のケアマネに確認し把握に努めています。職員へもその方の情報を周知してもらうようアセスメントシートにて回覧しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の中で気分の変化が急変する方もいます。その時の状態を把握し、職員は対応を変えています。お手伝いが好きな利用者へは役割を決め押しつけることのない程度に、取り組んでもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月のミーティング時に短期の更新の方のカンファレンスを行なっています。家族へは面会時に最近の様子だったり家族の意向を確認しケアプランに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録へ日々の様子を記録しています。状態の変化などあるときは連絡ノートなどに詳しく記載し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院について、家族での対応か施設での対応かを相談し協力を得ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握することができていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設で提携している訪問歯科以外の歯科医をご家族が希望し訪問を行なってもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師はおりません。協力医療機関の看護師とは電話やFAXにて相談し指示などいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の受診へ同行し、主治医へ情報提供を行ったり、入院中には可能な限り病院へ出向き、病院関係者へ状態を確認し、状態把握に務めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に終末期および急変時の延命治療に関する同意書について説明をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故に対しての訓練は実施していませんが、急変時対応の手順表を作成し周知してもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練を実施し、水害や地震などの災害を想定し訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴やトイレの介助にプライバシーの配慮を行なうよう配慮しています。本人の自尊心を傷つけないようなケアを膳職員ができているかという点できていないことが現実です。課題として取り組みます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的には本人の意向を確認しています。希望に添えるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員によっては業務中心になることもあります。一人ひとり飲ベースに合わせることは難しいですが、なるべく本人の意向を尊重するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な入浴の実施により清潔保持を確保している。たまに外出するときに髪を櫛でとかしたり身だしなみに注意をはらいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月リクエストランチにて利用者への希望を確認し提供しています。普段食べられない寿司やピザ・マックなど提供することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分や食事量の管理が必要な方のみチェック表にて摂取量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ほとんどご自分で口腔ケアを行なっています。先生より介助の指示があった方のみ介助にて行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	過剰なトイレ介助はしていません。必要に応じて必要な介助のみ行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事はバランスのとれた食材を配食サービスをお願いしているため、摂取量と水分量など必要な利用者へは、対応しそれでも排便が困難な方は、往診医へ相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日や時間を決めています。本人が拒否する時もあります。そんな時は別の日に対応したり臨機応変に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は特別決めていません。ご自身の部屋でテレビを見たり、日記を書いたりなど各々で自由な時間を過ごし、寝たいときに寝てもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の変更など往診記録に記入し、職員は必ず確認し把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ぬりえやトランプなど希望者のみ一緒にレクとして楽しんでもらいます。ラジオ体操やリハビリ体操は男性の参加もよく一緒に行なっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に合わせての外出はできません。ドライブなど今の状況でもできる外出支援を行なっています。ご家族との外出も面会ができないためできない現状です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は本人は行なっていません。お預り金にて必要に応じて消耗品など購入しています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を自管理でもっている方もいます。自由に電話しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝、廊下・フロア・居室の掃除機をかけ清潔保持を心がけています。フロアには職員が季節の飾りを作成し展示しています。利用者似合わせた温度調整を行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の時は席を決めて座ってもらいますが、それ以外ではソファで他の利用者と会話を楽しむ人もいれば、一人でテレビを見たり、新聞を読んだりと自由に過ごしてもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の居室は介護ベットとクローゼットのみこちらで準備しています。それ意外に関しては本人の使い慣れた物やテレビ・仏壇など自宅に近い環境作りを行なっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活をしていると破損したりなどのトラブルがあります。都度業者へ連絡し改修してもらっています。安全に過ごしてもらうよう取り組んでいます。		

2020年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム幸せふくろう万田

作成日： 令和3年2月26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	トイレの訴えが何度も続くと職員から「さっきも行ったじゃん」「また行くの」などの声が聞こえる。配慮出来ている職員も多いが出来ていない職員が目立ってしまう。	利用者中心のケアを心がける。どうしても業務に追われがちでケアを怠ってしまう。利用者へ寄り添ったケアを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務にゆとりが持てるように職員同士声をかけ合い業務を分担する。</li> <li>・不適切な声掛けをしている職員に対して他の職員が注意する。言いづらいようであれば管理者へ報告し注意する。</li> </ul>	6ヶ月
2		新型コロナについて職員も対応に戸惑っている。統一した対応が必要だが、対応について職員へ周知しきれいな部分もある。	新型コロナウイルスの感染予防に努め、正しい対応を学ぶ必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のミーティングの時に15分ほどの時間で感染予防の勉強を行う。</li> <li>・職員で順番に調べて発表してもらい学びを深める。</li> </ul>	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月